

山岳科学フィールド実習の受入れ～山岳科学連携協定～

【技術普及課】9月13日、東信森林管理署管内浅間山国有林において、山岳科学フィールド実習生(修士課程一年次の学生)28名を受け入れました。

これは、筑波大学、信州大学、山梨大学、静岡大学が連携して創設している、大学院(博士前期課程)の山岳科学に関するプログラムの一環として実施されているもので、中部森林管理局は、関東森林管理局とともに、四大学と、山岳科学の発展に向けた連携・協力を目的に協定を締結しています。

現地実習では、国有林野事業の事業概要や、清万採種園での種子採取量増加に向けた取組、ニホンジカによる被害防止に向けた取組及び、皆伐、地拵え、植付けを一貫して行うことによる、造林コスト軽減に向けた取組について説明しました。

実習生からは、「クマが間違っただけにワナに掛かったらどう対処するのか」、「ワナはどのような場所に仕掛けるのか」、「カラマツの生長を早くすると材質に影響しないのか」などの質問が多く出されました。

その後、場所を移動し、国立研究開発法人森林総合研究所林木育種センター長野増殖保存園において、カラマツ等の遺伝資源保存に向けた取組を、また、東信木材センターにおいては、カラマツ材の流通等に対する取組についての説明を受けました。

今後も、協定に基づいて、より多くの学生を受け入れたいと考えています。



捕獲わなの説明をする森林技術指導官

空調服を活用した、熱中症対策の取組

【森林技術・支援センター】近年、主伐・再造林が増加し造林の低コスト化が喫緊の課題となっています。当センターにおいても造林の低コスト化に向けた取り組みとして、「ヒノキコンテナ苗」の普及に向け、その優位性の検証のため各種調査を行っています。



空調服を着用した下刈り作業中の様子

コンテナ苗の成長面での優位性が確認できれば、造林コストで大きな割合を占める下刈作業の省略に繋がることから、個体調査と合わせ周囲の野草との競合度合についても調査を実施しています。

夏場の造林地での調査や作業は、熱中症対策も兼ねていることから、当センターでは昨年度から空調服を活用しています。

空調服とは、電池でファンを稼働し、気化熱の作用を増幅させ、作業着の中の冷却効果を図るものです。

着用して作業をしてみると汗をかく量が減り、疲労軽減に効果があることが実感できました。猛暑日にたびたび見舞われる昨今、建設工事現場等でも暑さ対策のため、空調服の普及が見られます。